

付着生物ラーバ情報

マボヤのラーバはこれから増加する見込み

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称ハナ)

ラーバは久栗坂沖で11月8日に0.6個体/m³、11月18日に1.1個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) マボヤ

ラーバは11月18日に久栗坂沖で0.6個体/m³見られ、卵は11月5日に野辺地沖で0.8個/m³、11月15日に奥内沖で0.8個/m³、11月18日に川内沖で1.6個/m³見られました (表1、図3)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは11月5日に奥内沖で6.7個体/m³、野辺地沖で13.3個体/m³、11月8日に久栗坂沖で31.7個体/m³、11月15日に奥内沖で14.2個体/m³、久栗坂沖で28.9個体/m³、11月18日に久栗坂沖で16.7個体/m³、川内沖で18.8個体/m³見られました (表1、図4)。

(4) その他

アミクサの小枝は11月5日に野辺地沖で15.6個/m³、11月15日に奥内沖で0.8個/m³見られましたが、サンカクフジツボとキヌマトイガイのラーバ、オベリア類のクラゲは見られていません (表1)。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラホヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	オベリア類クラゲ	アミクサ小枝
				ラーバ	卵					
奥内沖	R3.11.5	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	R3.11.15	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	14.2	0.0	0.0	0.8
	R3.11.18	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	31.7	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R3.11.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.9	0.0	0.0	0.0
	R3.11.18	1.1	0.0	0.6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R3.11.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	13.3	0.0	0.0	15.6
川内沖	R3.11.18	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

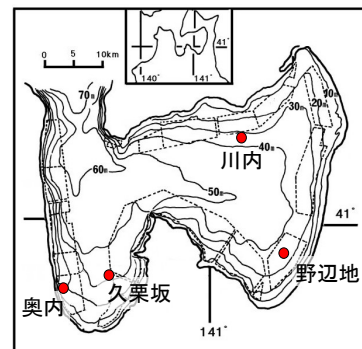


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層水温は14~17℃台で、ユウレイボヤが産卵する20℃以下の水温になっています。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバの出現数が増加する可能性があるので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバは少し見られますが、これまでの調査で秋から冬生れのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

マボヤの卵とラーバが見られてきたので、今後ラーバが増加するものと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われま

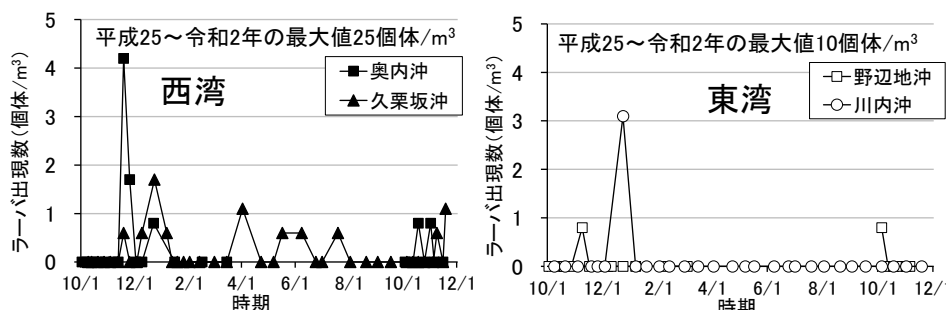


図2 ヲレボヤラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年11月)

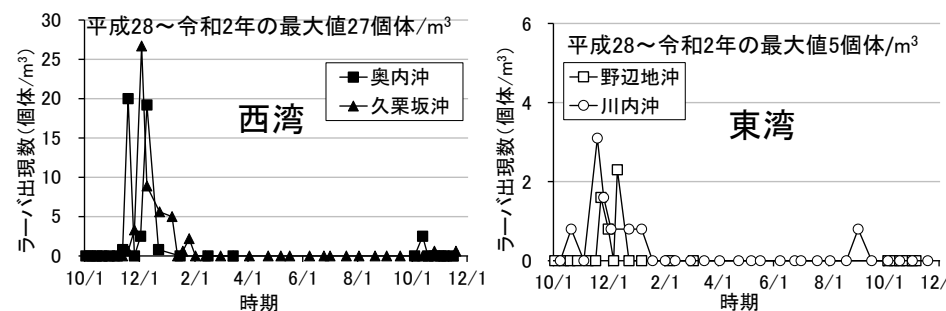


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年11月)

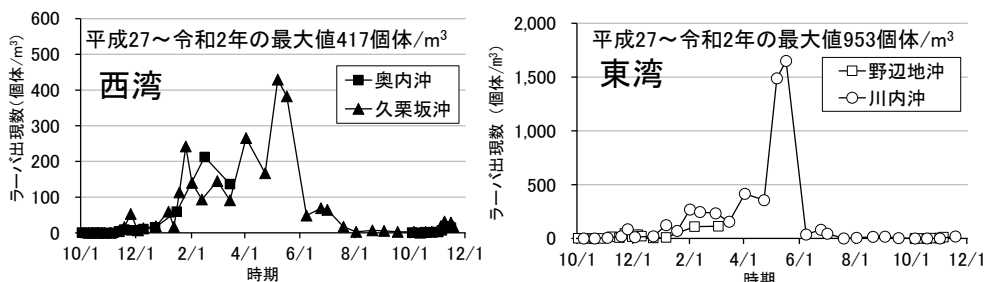


図4 ムラサキイガイラーバ出現数の推移 (令和2年10月~令和3年11月)

